

暦の上では春とはいえ、まだまだ寒い日が続きます。東アジア諸国では、春節の季節となりました。京都復興教会にとっては、この季節は創立記念月間です。今年は78周年を迎えました。厳しい時代の中で信仰の火を燃やし続けた先達の姿に、励まされます。私たちも、み言葉に約束された、神様の愛に答えて、歩めますように。

献身の年

アシュラムによる教会形成を掲げて、今年は4年目を迎えます。今年のテーマは「神の国の体験と献身」です。献身と聞くと、神学生や牧師など、ごく一部の人を連想するかもしれませんが。しかし、クリスチャンになるということは、牧師や宣教師といった、直接献身者にならなくても、実はすべての人は神の国の働きのために、応答する使命があるのです。世界で「牧師」と名乗っている人の中で、いわゆる神学を学び、養成所で訓練を受けて、資格を持つ人は、実はほとんどいないそうです。日本はほぼ100%であり、それが当たり前のようですが、それは世界の常識ではありません。アジアの牧師たちは、受け継いだ信仰と祈り、そしてみことばによって、自宅や集会所を用いて教会を生み出していています。未熟な部分や、整えられていない所もありながらも、それを凌駕する、情熱と勢いがあるのです。

京都復興教会が約80年前に復興された時、会堂はなく、専任の牧師もいませんでした。四ノ宮の粟津家の二階が会堂であり、膳所の緒形牧師は巡回教師でした。炭さえ持ち寄るほどの教会の貧しさの中であって、私たちの先達は、京都のリバイバルを信じて「京都復興教会」と名前を改称したのです。

今年、リニア計画によって、移転を余儀なくされた長野県の喬木教会が、「南信州フォレストチャーチ」と改称し、天竜川の向こう側の高森町に新会堂を建設中です。神の業は、苦難の中にも力強く進むことを命じています。今年は、献身の年です。

価高く貴い者よ

献身の年に、祈り求めて与えられたみことばが、イザヤ43章4節でした。直接的には、昨年夏に、赤岩神学生が夏期学校の奨励を、一生懸命語っている姿に靈感を受けました。ありのままの姿を受け入れてくださる神様に、応答して生きる姿は、素晴らしいなと思ったのです。神の愛のゆえに、恐れず身を捧げる者となりましょう。

今朝は奇しくも春節に、北京から来日された呉艶萍姉の洗礼式が行われます。神様は、私たちが世界のどこにいても、必ず救いあげ、「価高く、貴い者よ、私はあなたと共にいる」と語りかけてくださる方です。この約束ほど、私たちにとって大きな恵は他にありません。

預言者イザヤは、イスラエルの民が歴史上最も大きな受難を受けた時代に、この神の言葉を語りました。その響きは世界の果てに、今も響き、応答を待っています。